

令和7年度取組状況

ものづくり工学科 一般科目 教授 永井誠

取組状況	
教育	(1)各学年において基礎文法練習問題を繰り返すことによって基礎力を確保した。(2)第4学年の学生が、理工系テキストの英文の複雑な統語構造に対応できるようになった。(3)第5学年の学生が、基本的文法力に基づき自分の意見・意図を英語で表現できるようになった。(4)習得状況の数字を提示することにより、学生の達成感を高めた。
研究	(1) 過年度に機械翻訳を有効活用した「作文比較メソッド」を考案したが、昨年度はその効果を定量的に報告するための実験を行った。長期休業中及びその前後に効果測定のための課題作文を行い、データを取った。(2)今年度はその集計に基づき効果を報告する論文を発表した。作文比較メソッドによって、学生の自由ライティングにおいて量的な向上が見られた(より多く書けるようになった)一方、質的な向上は確認されなかった(より複雑な文が書けるようにはならなかった)。従ってライティング指導においては、この教授法以外にそれと並行して、質的な向上を促す何らかの方策(センテンス・コンバイニングなど)が必要であるという知見を得た。
社会貢献	(1)「英語教育新発想」というテーマで教員シーズ集にページを設け、自分の研究成果を英語教育の現場に還元するため、技術相談に応じる体制を整えた。(2)「コミュニケーションの為の英文法」という出前・受け入れ授業テーマを設定し、英語教育の向上に努める体制を整えた。